



杉山たかのり

 ニュース

市議会内 日本共産党市会議員団控室 Tel.35-3368

自宅 西宮市津門仁辺町5-21 Tel・Fax35-1682

団ホームページ <http://nishinomiya.jcp-giin.net/>

ブログ・ツイッター [杉山たかのり](#) フェイスブック [杉山孝教](#) で検索を

市議団の視察 (2016年1月20日～22日)

小山市、宇都宮市、豊島区、文京区

積雪により名古屋まで新幹線が低速運転で小山市に到着したのは1時間遅れとなった寒い時期の団視察。今回は子どもの貧困を中心にした視察となりました。

栃木県小山市 子どもの貧困撲滅5か年計画

小山市では、地元紙「下野新聞」が小山市内の貧困家庭を取り上げたことをきっかけに、市長を本部長に「子どもの貧困・虐待防止対策本部」を設置し、2015年3月に「小山市子どもの貧困撲滅5か年計画」を策定した。早期発見のための取り組みの強化、生活支援、教育支援、就労支援、経済的支援、支援体制の整備・充実の6つの方針に基づき47事業に取り組んでいます。生活支援では民家を借上げNPO法人に委託し、調理・食事、入浴、選択、学習支援など放課後等に家庭的な環境で過ごせる居場所を提供している。養育放棄などで、あたり前と思われる生活の保証されない子どもが増えています。「貧困の連鎖」を断ち切るための努力が西宮市でも求められています。

栃木県宇都宮市 宮っ子ステーション事業

餃子のまち、自転車のまちなど、特色のある宇都宮市ですが、今回は放課後児童対策。宮っ子ステーションとは、放課後等におけるすべての児童の健全育成を目的に、地域の実情に応じた地域ぐるみの子育てを推進するとして、市教委と地域が協力して取り組む事業。市が地域の運営委員会に事業を委託し、学童保育と放課後子ども教室を運営するものです。西宮市では学童保育に指定管理者制度を導入、来年度から株式会社が参入することになり、大きな違いがあります。



豊島区 新庁舎整備

西宮市では、財政危機をあおってきた今村市長が、100億円規模の第2庁舎整備を急いでおり、慎重にすすめるべきだと市議団は警鐘を鳴らしています。

豊島区では庁舎の老朽化と分散を解消し、財政危機の下で借金を含め財源を使わずに新庁舎を整備するため、移転地区の再開発事業（庁舎と分譲マンション）と旧庁舎跡地を売却ではなく長期間の定期借地による収入などで財源をねん出するという手法を使っています。都内だからこそできる財源の確保だと思いますが、庁舎の安全性、窓口の改善など市民サービスの向上につながっています。西宮市は第2庁舎を防災危機管理センターに位置づけていますが、窓口など市民サービスの向上にはつながりません。



文京区 自転車の安全利用、コミュニティバス「Bーぐる」

「啓発しかない」というのが担当者の声でした。文京区では小学生への自転車免許証発行、スタントマンによる安全教室、成人式での啓発グッズ配布など、若い世代に働きかけています。

コミュニティバスについては、民間事業者に区が赤字補填という形で運行し、西宮市のさくらやまなみバスと同様と言えますが、市域が狭いことから運賃は100円。2コースで利用者も多いとのこと。西宮市ももっとコミュニティバスの運行を支援すべきです。



NPO法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

区が委託する池袋本町公園のプレーパーク事業を NPO 法人の代表から現地で説明を受けました。法人化は区の委託がきっかけに。「地域の子どもの地域で見守り育てる」ために設立したとのこと。

遊ぶ子どもから「貧困」が見えてくる中で、無料学習支援や子ども食堂、夜の児童館をボランティアで取り組んでいるとのこと。子ども食堂は月に2回。食材はいろいろなところから提供されるとのこと。行政から支援を受けると、制約がかかるので独自にやっているとのこと。しかし、子どもの貧困問題は放置できない問題であり、行政が主体となってやるべき事業も多数あり、このような NPO 法人などの活動を、場所の提供や資金援助など、支援することは必要だと感じました。

